

25.9.28 宮日

水流川再生へ一歩

大塚地区 上流送水工事が完了

水質改善、生物増に期待

流量が減少している宮崎市大塚地区の水流(つる)川で、国土交通省宮崎河川国道事務所と県が進めてきた環境再生工事が完了した。大塚川でくみ上げた水を送水管で上流に送って流量を増やし、砂利を敷き詰めるなど水生生物が生息しやすい環境を整備。水質浄化と生物の多様性向上が期待される。



水流川は同地区の雨水など

を水源とし、大塚川に流れ込む延長約1.5キロの県1級河川。1990年代までは同地区の住宅地開発で生活排水が流れ込み、ヘドロが堆積するなど水質が悪化。近年は下水道普及で排水流入が少なくなると水質が激減、生物がすみにくい環境となっている。

工事は2007〜13年度に実施し、調査設計を含めた総事業費は約11億円。国が施工した送水管工事は、河口に取水ポンプを設置し、さらに直径約45センチの送水管を川沿いの約1キロに設けた。上流から最大で毎秒0.22リットル(バスタブ1杯分)を注水する。年内に試験運転を始め、オイカワやコイが移動できる水深約20センチを保つよう季節によって水量調節。13〜15年度の3カ年にわたり、水質改善の目安となる水生生物の種類や数の調査を実施する予定。

県の環境整備は、上流部で水深確保のため川底を3センチ掘り下げ、自然環境に近づけるためコンクリートの上に石や砂利を敷き詰めた。下流部には市民が川に親しめるよう緩やかな勾配の護岸や階段を整

備し、約2000坪の散策路も設けた。県宮崎土木事務所河川砂防・都市公園課は「工事に合わせ川底にたまっていたヘドロやごみも除去した。地域住民に親しめる川として管理していきたい」としている。